

2017年度(平成30年3月期) 第1四半期決算説明資料

IHI

2017年8月8日

株式会社 IHI



目次

1. 2017年度第1四半期 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益.....	8
特別損益.....	9
連結貸借対照表.....	10
補足資料.....	11

2. 2017年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	14
報告セグメント別内訳.....	15

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	19
社会基盤・海洋.....	21
産業システム・汎用機械.....	23
航空・宇宙・防衛.....	25

<参考資料>.....	27
-------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2017年度第1四半期 連結決算

1. 2017年度第1四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2017年度1Q 売上平均レート(米ドル) 111.13円

(億円)

	'16年度1Q	'17年度1Q	増 減
受 注 高	2,588	2,903	314
売 上 高	3,414	4,024	610
営 業 利 益	106	254	148
経 常 利 益	45	218	172
税金等調整前 四半期純利益	45	188	143
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8	117	108

2016年度と同様に、一部の海外連結子会社の決算日を12月31日から3月31日に変更しており、第1四半期連結累計期間においては、該当する海外連結子会社の会計期間が6か月となっています。この影響により、売上高で579億円(前期252億円)、営業利益で14億円(前期27億円)がそれぞれ増加しています。

1. 2017年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受注高			受注残高		
	'16年度1Q	'17年度1Q	増減	'16年度末	'17年度1Q	増減
資源・エネルギー・環境	867	735	▲ 132	7,523	7,144	▲ 379
社会基盤・海洋	270	327	56	1,961	1,997	36
産業システム・汎用機械	1,094	1,306	211	1,484	1,482	▲ 1
航空・宇宙・防衛	328	469	141	5,110	4,488	▲ 622
報告セグメント計	2,561	2,838	277	16,080	15,113	▲ 967
その他	144	184	39	172	194	22
調整額	▲ 116	▲ 120	▲ 3	-	-	-
合計	2,588	2,903	314	16,253	15,307	▲ 945

海外受注高・受注残高	1,108	1,391	283	5,912	5,094	▲ 817
海外受注高・受注残高比率	43%	48%	5%	36%	33%	▲ 3%

1. 2017年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'16年度1Q	'17年度1Q	増減	'16年度1Q	'17年度1Q	増減
資源・エネルギー・環境	963	1,358	395	▲ 23	▲ 7	15
社会基盤・海洋	338	299	▲ 39	▲ 65	33	99
産業システム・汎用機械	1,015	1,211	195	32	44	12
航空・宇宙・防衛	1,037	1,117	79	169	186	17
報告セグメント計	3,354	3,986	632	112	256	144
その他	146	129	▲ 17	▲ 3	▲ 4	0
調整額	▲ 87	▲ 91	▲ 4	▲ 1	2	4
合計	3,414	4,024	610	106	254	148

一部の海外連結子会社の決算日を変更したことに伴うセグメント別の影響については、決算短信のセグメント情報を参照ください。

1. 2017年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(営業利益の前年同期比増減要因)

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変 動	報告期間統一 の影響	合 計
資源・エネルギー・環境	21	▲ 2	3		▲ 7	15
社会基盤・海洋		98	1			99
産業システム・汎用機械	8	5		3	▲ 4	12
航空・宇宙・防衛	18	12	1	▲ 14		17
報告セグメント計	47	113	5	▲ 11	▲ 11	144
そ の 他	▲ 1			3	▲ 2	0
調 整 額		▲ 2		6		4
合 計	46	111	5	▲ 2	▲ 13	148

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

1. 2017年度第1四半期 連結決算 営業外損益

(億円)

	'16年度1Q	'17年度1Q	増 減
金融収支	0	0	0
持分法による投資損益	▲ 3	4	8
為替差損益	▲ 89	4	94
その他	32	▲ 45	▲ 77
営業外損益	▲ 60	▲ 36	24

期末日レートの変動(米ドル) '16年度1Q ▲9.77円(期首112.68円→1Q末102.91円)
'17年度1Q ▲0.19円(期首112.19円→1Q末112.00円)

1. 2017年度第1四半期 連結決算 特別損益

(億円)

	'16年度1Q	'17年度1Q	増 減
特 別 利 益	—	—	—
商業運転中のボイラ設備に係る 和解関連費用	—	▲ 29	▲ 29
特 別 損 失	—	▲ 29	▲ 29
特 別 損 益	—	▲ 29	▲ 29

1. 2017年度第1四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'16年度末	'17年度1Q末	増減
資産合計	16,928	16,681	▲ 246
(うち 売上債権)	(4,030)	(3,833)	(▲ 197)
(うち 棚卸資産)	(4,172)	(4,432)	(259)
負債合計	13,552	13,174	▲ 377
(うち 仕入債務)	(2,859)	(2,983)	(123)
(うち 前受金)	(2,089)	(2,035)	(▲ 53)
(うち 有利子負債残高)	(3,719)	(3,521)	(▲ 197)
純資産合計	3,376	3,507	130
株主資本	3,099	3,217	117
その他の包括利益累計額	81	94	12
負債・純資産合計	16,928	16,681	▲ 246
D/Eレシオ(※)	1.10倍	1.00倍	▲ 0.10倍
自己資本比率	18.8%	19.9%	1.1%

有利子負債残高には、リース債務残高(2016年度末:203億円, 2017年度1Q末:192億円)を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

(1) 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'16年度1Q	'17年度1Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	330	104	▲ 225
投資キャッシュ・フロー	▲ 166	67	234
フリー・キャッシュ・フロー	164	172	8
財務キャッシュ・フロー	▲ 111	▲ 220	▲ 108

(2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費 (億円)

	'16年度1Q	'17年度1Q
研究開発費	69	70
設備投資額	92	101
減価償却費	111	115

設備投資額, 減価償却費は, 有形固定資産に係る金額を示しています。

(3) 海外売上高 (億円)

	'16年度1Q	'17年度1Q
アジア	592	368
中国	229	321
北米	763	1,159
中南米	81	55
欧州	307	472
その他	93	69
合計	2,067	2,448
海外売上高比率	61%	61%

2. 2017年度 連結業績見通し

2. 2017年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル **105円**(前回見通し公表時 **105円**)
 (第2四半期以降) ユーロ **120円**(前回見通し公表時 **115円**)

(億円)

	前回見通し ('17年度通期) A	今回見通し ('17年度通期) B	前期実績 ('16年度通期)	増 減 B-A
受 注 高	15,000	15,000	13,898	0
売 上 高	15,500	15,500	14,863	0
営 業 利 益	650	650	473	0
経 常 利 益	570	570	220	0
親会社株主に帰属する 当期純利益	230	230	52	0

前回見通しは、2017年5月9日公表の業績予想数値です。

(参考) 為替感応度(為替相場の1円の変動により、営業利益に与える影響額)

米ドル 7億円 ユーロ 0億円

(注) 2016年度から順次、海外連結子会社の決算日について12月末から3月末への変更を進めており、
 2017年度も一部の海外連結子会社については15カ月間の業績見通しとなっております。

また、2017年度より、当社及び一部の国内連結子会社では、有形固定資産の減価償却方法を定率法
 から定額法へ移行しております。

2. 2017年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’17年度通期)	今回見通し (’17年度通期)	増 減
資源・エネルギー・環境	4,600	4,600	0
社会基盤・海洋	1,500	1,500	0
産業システム・汎用機械	4,500	4,500	0
航空・宇宙・防衛	4,100	4,100	0
報告セグメント計	14,700	14,700	0
そ の 他	700	700	0
調 整 額	▲ 400	▲ 400	0
合 計	15,000	15,000	0

2. 2017年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’17年度通期)		今回見通し (’17年度通期)		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	5,400	230	5,300	160	▲ 100	▲ 70
社会基盤・海洋	1,500	80	1,600	90	100	10
産業システム・汎用機械	4,300	110	4,400	130	100	20
航空・宇宙・防衛	4,400	370	4,400	390	0	20
報告セグメント計	15,600	790	15,700	770	100	▲ 20
そ の 他	700	20	700	20	0	0
調 整 額	▲ 800	▲ 160	▲ 900	▲ 140	▲ 100	20
合 計	15,500	650	15,500	650	0	0

2. 2017年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(営業利益の増減要因)

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変動	合計
資源・エネルギー・環境	▲ 10	▲ 50		▲ 10	▲ 70
社会基盤・海洋	10				10
産業システム・汎用機械	10			10	20
航空・宇宙・防衛			20		20
報告セグメント計	10	▲ 50	20	0	▲ 20
その他					0
調整額		20			20
合計	10	▲ 30	20	0	0

3. 報告セグメント別の概況

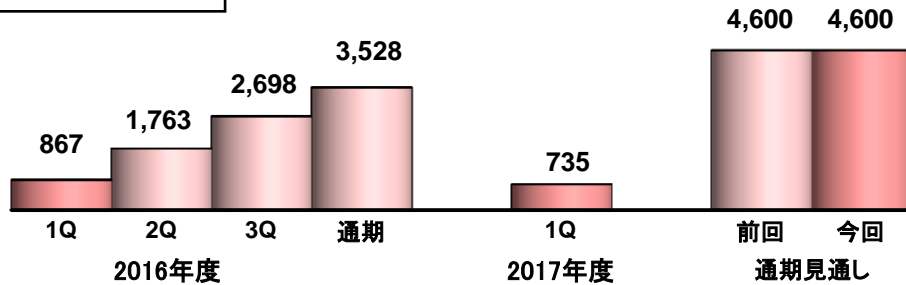
3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2017年5月9日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, 船用大型原動機, プロセスプラント,
原子力, 環境対応システム, 医薬プラント

受注高



<対前年同期 増減内訳>

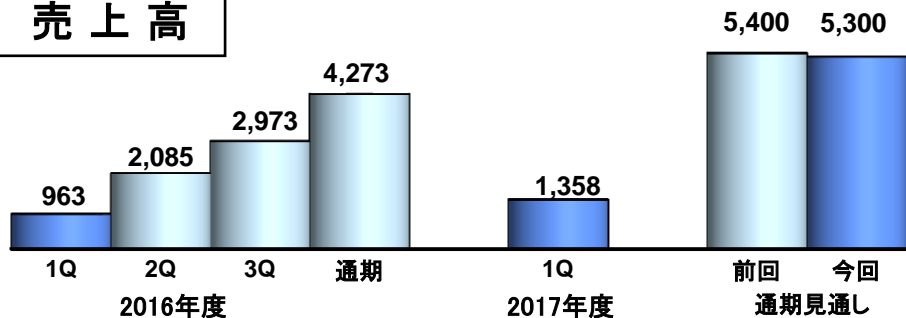
【受注高】

環境対応システムやプロセスプラントで減少しました。

【売上高】

報告期間統一の影響のほか、プロセスプラントにおいて大型プロジェクトが進捗したことや、原子力、陸船用原動機などで増収となりました。

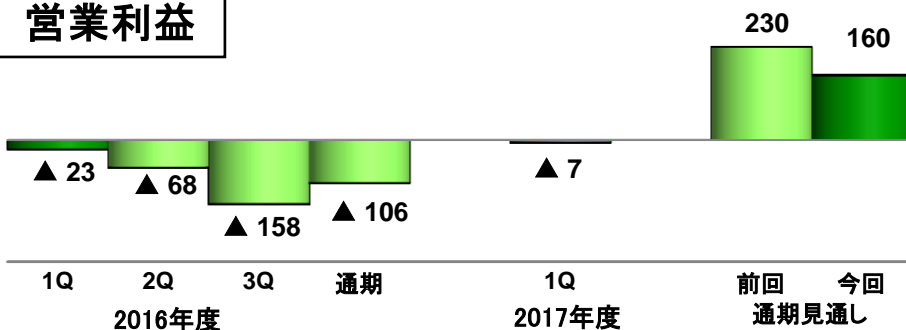
売上高



【営業利益】

原子力、陸船用原動機の増収などにより、赤字幅が縮小しました。

営業利益



<通期見直し 対前回 増減内訳>

受注高は変更ありません。

売上高は、ボイラの一部工事の工程見直しにより、減収となる見込みです。

営業利益は、プロセスプラントでの採算悪化などにより減益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高		売上高					
	'16年度 通期	'17年度 通期 (見通し)	'16年度			'17年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期 (見通し)
ボ イ ラ	583	1,000	245	609	861	1,120	254	1,400
原 動 機 プ ラ ン ト	190	790	58	104	140	189	64	380
陸 舶 用 原 動 機	611	640	133	264	388	583	145	620
プ ロ セ ス プ ラ ン ト	730	910	215	486	629	943	691	1,600
原 子 力	556	270	22	69	127	301	52	450

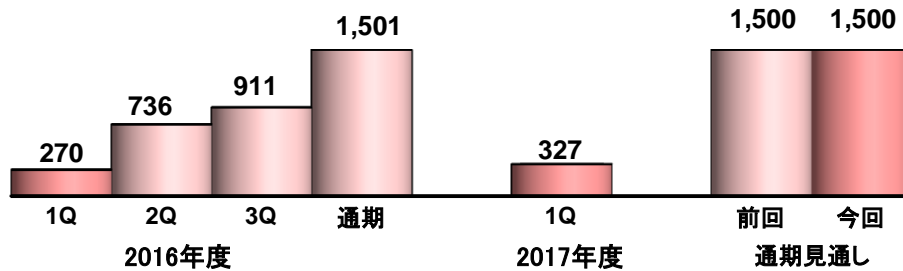
3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2017年5月9日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁・水門, シールドシステム, 交通システム, コンクリート建材,
都市開発, F-LNG

受注高



<対前年同期 増減内訳>

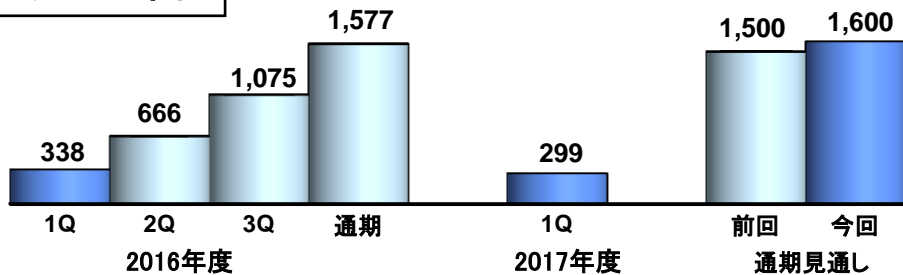
【受注高】

橋梁・水門で増加しました。

【売上高】

シールドシステムの工事進捗に伴う増収があったものの、F-LNGや橋梁・水門で減収となりました。

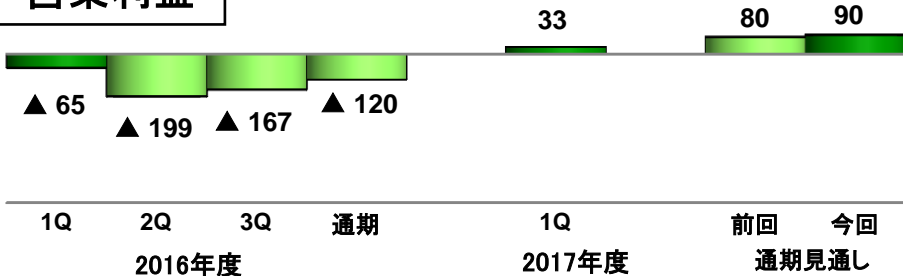
売上高



【営業利益】

F-LNGは、追加コストを計上した前年同期と比べて改善しました。加えて橋梁・水門及びシールドシステムで採算が改善したことなどもあり、営業黒字となりました。

営業利益



<通期見通し 対前回 増減内訳>

受注高は変更ありません。

売上高・営業利益については、シールドシステムでの増収・増益を反映しました。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高		売上高					
	'16年度 通期	'17年度 通期 (見通し)	'16年度			通期	'17年度	
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期 (見通し)
橋梁・水門	710	700	150	306	449	672	128	700
F-LNG	▲ 17	0	80	107	146	184	24	120
都市開発	151	170	34	71	106	142	42	170

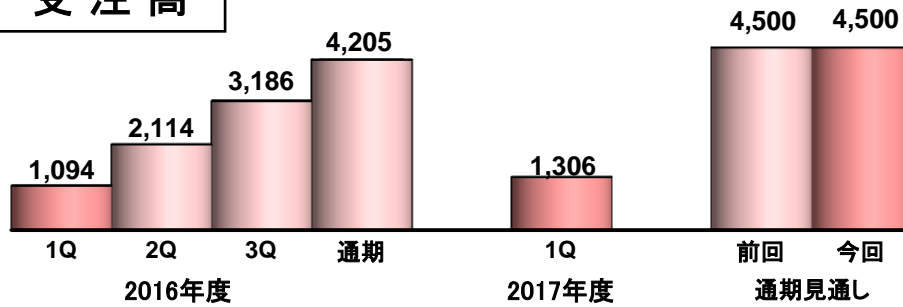
「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P33、P34の<参考資料>をご覧ください。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

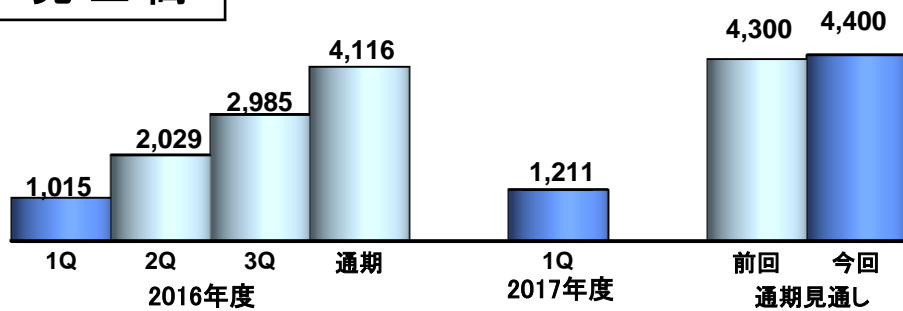
(億円/各期の金額は累計)
前回: 2017年5月9日公表の業績予想数値

主要事業: 物流・産業システム, 運搬機械, パーキング, 熱・表面処理, 車両過給機, 回転機械, 農機・小型原動機

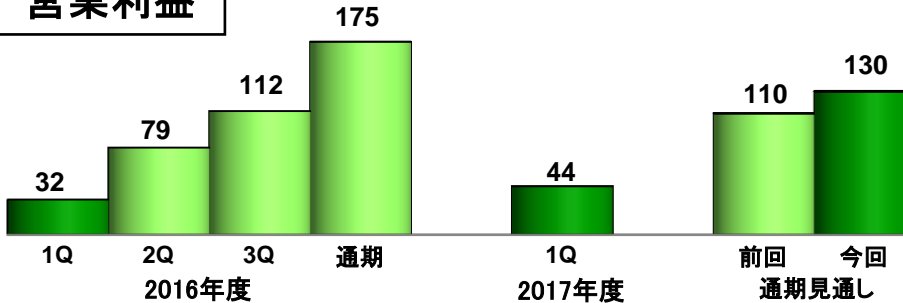
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

物流・産業システムの減少や建機の事業譲渡による影響はあったものの、車両過給機や熱・表面処理で増加しました。

【売上高】

報告期間統一の影響に加えて、車両過給機の中国向け販売台数が増加したことなどにより、増収となりました。

<車両過給機の販売台数>

(万台)

販売年度	1Q	通期
2016年度	155	610
2017年度	265	760

【営業利益】

上記の増収及び車両過給機の採算改善により、増益となりました。

<通期見直し 対前回 増減内訳>

受注高は変更ありません。

売上高・営業利益については、車両過給機における販売台数の増加などにより、増収・増益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高		売上高					
	'16年度 通期	'17年度 通期 (見通し)	'16年度			通期	'17年度	
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期 (見通し)
運搬機械	319	370	54	116	165	234	32	290
パーキング	416	480	75	184	296	428	78	440
熱・表面処理	352	420	78	156	232	323	132	410
車両過給機	1,746	1,900	474	868	1,293	1,746	691	2,000
回転機械	480	490	103	217	337	482	82	480

「車両過給機」の詳細は、P32の<参考資料>をご覧ください。

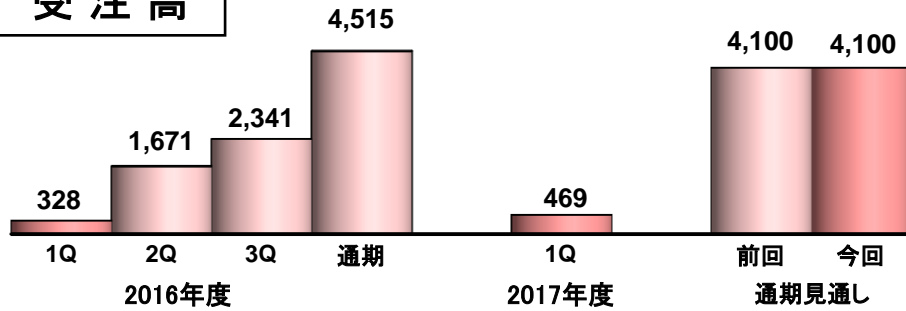
3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2017年5月9日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

受注高



<対前年同期 増減内訳>

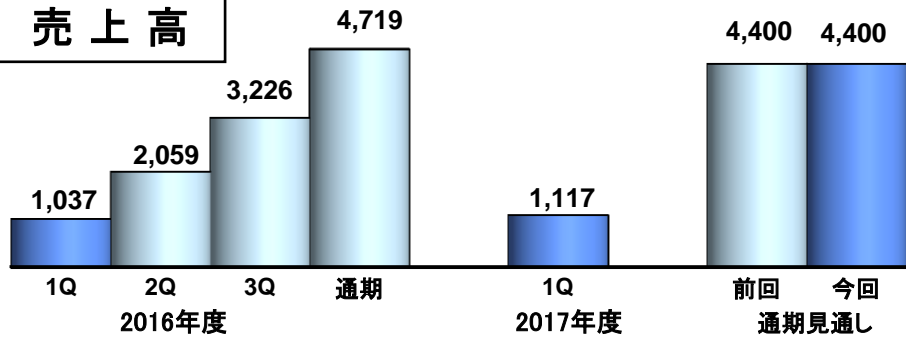
【受注高】

航空エンジンやロケットシステム・宇宙利用で増加しました。

【売上高】

防衛省向け航空エンジンやロケットシステム・宇宙利用で増収となりました。

売上高

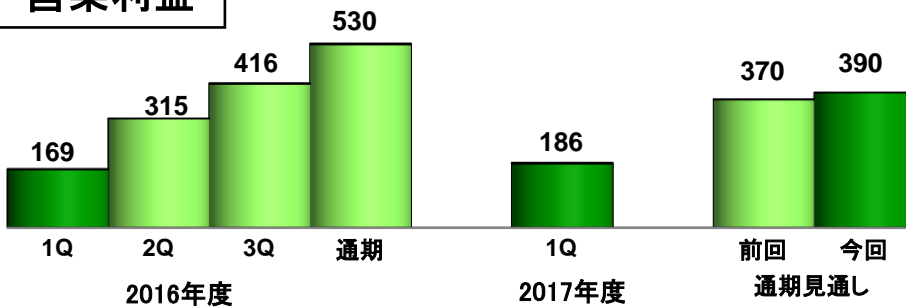


<民間向け航空エンジンの販売台数>

(台)

販売年度	1Q	通期
2016年度	334	1,282
2017年度	343	1,300

営業利益



【営業利益】

販管費の増加はあったものの、ロケットシステム・宇宙利用の増収に加え、民間向け航空エンジンでの採算改善や費用発生遅れにより、増益となりました。

<通期見直し 対前回 増減内訳>

受注高・売上高は変更ありません。

営業利益は、民間向け航空エンジンで、為替による好転の実績を反映しました。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高		売上高					
	'16年度 通期	'17年度 通期 (見通し)	'16年度			通期	'17年度	
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期 (見通し)
民間向け 航空エンジン	2,630	2,900	698	1,352	2,083	2,915	697	2,600

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P31の<参考資料>をご覧ください。

<参考資料>

- ・海外大型案件の進捗状況
- ・当第1四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

コーブポイント天然ガス液化設備



2017年6月現在



脱水装置への吸湿剤充填

<進捗状況>

2017年6月末現在で、設計及び機器の発注はほぼ完了し、補助ボイラ稼動。プロジェクト全体の進捗率は92%。

<主要工程>

- 2013年4月: 契約締結
- 2014年9月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会)の建設許可承認(仮設工事着工承認)
- 2015年3月: 起工式挙行
- 2017年3月: DCS(プラント制御装置)運転開始
- 2017年中頃: メカニカル・コンプライーション
- 2017年10~12月: 運転開始

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: コーブポイント天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地: 米国メリーランド州, ラスビー, チェサピーク・ベイ
- ・担当範囲: 年産約525万トンの液化設備の設計, 建設, 試運転及び運転開始

ジマイーストパワー石炭火力発電所



完成予想図



2017年6月末現在

<進捗状況>

2017年6月末現在, 杭打・基礎工事継続中。#1ボイラ鉄骨・ダクト・電気集塵機を据付中。6月14日#1耐圧部据付開始。ボイラ部分の進捗は設計:約84%, 調達:約50%, 据付:約7%, プロジェクト全体:約44%。

<主要工程>

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 2014年 8月: 契約締結 | 2018年10月: 火入れ(#1) |
| 2017年 1月: 立柱(#1) | 2019年 4月: 火入れ(#2) |
| 2017年 7月: 立柱(#2) | 2019年 6月: 運転開始(#1) |
| 2018年 4月: 水圧試験(#1) | 2019年12月: 運転開始(#2) |
| 2018年11月: 水圧試験(#2) | |

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: IPP事業者のJimah East Power社向け石炭焚き発電所のフルターンキー契約
- ・建設地: マレーシア, ネグリスンビラン州ジマ地区
- ・担当範囲: 超々臨界圧石炭火力発電所ボイラ(1000MW×2基)の設計・調達・建設及び試運転

マレーシアにおける固体バイオマス燃料製造事業について

IHIは、バイオマス関連の新たな事業分野への展開の一環として、東南アジア地域に多く存在するパーム由来の未利用バイオマスを原料とした、火力発電に適用可能なカーボンニュートラルのバイオマス燃料製造に関する商用実証に取り組むことを決定しました。今後、マレーシアで稼働中のテストプラントを商用実証水準に拡張する計画であり、燃料サンプルの出荷を2017年度後半に開始する予定です。

今後とも、石炭火力発電所における木質バイオマス高比率混焼や発電設備の更なる高効率化、CO2回収技術の開発などのこれまでの取組みに加え、カーボンニュートラルなバイオマス燃料を提供する今回の取組みを通じて、火力発電設備から排出されるCO2低減に貢献してまいります。



<EFBペレット製造のパイロットプラント>



<工場全景>

IHIグループ初 ミャンマーの工場がヤンゴンに完成

IHIのグループ会社でアジア太平洋地域統括会社のIHI ASIA PACIFIC PTE. LTD.と、ミャンマー連邦共和国建設省道路局の合弁会社「I&H Engineering Co.,Ltd」がヤンゴンに建設していた工場が完成しました。

このたび完成した工場では、強度の高いPC(プレストレスト・コンクリート)技術により、コンクリート橋桁、スパンパイル(PC杭)、建設資材などを製造する予定です。日本と同じく地震国のミャンマーにおいて、高強度のコンクリート製品への潜在需要は高いと予想されています。

日本で培ったIHIグループのコンクリート技術を通じて、経済成長が見込まれるミャンマーのインフラ整備に貢献するとともに、技術移転・人材育成の期待に応えていきます。

クロムコーティングのプロセス技術を開発・スペインにコンピテンスセンターを開設

IHIのグループ会社であるPVD(※)成膜装置メーカーのIHI Hauzer Techno Coating B.V.は、プラスチック・クロムコーティングのプロセス技術を開発、スペイン・バルセロナ近郊に新会社IHI Hauzer Techno Coating Iberica S.L.を設立し、コンピテンスセンターを開所しました。

このたび開発した技術は、環境にやさしく、多様なプラスチック製品に施工可能かつシンプルな2層構造である点が大きな特徴です。

コンピテンスセンターでは、処理工程をお客さまに直接ご覧いただく他、サンプル品の処理を行ない、お客さまの要望に沿ったコーティングが可能であることを確認いただくことで、生産設備の受注に繋げていきます。また、部品コーティングの受託加工も行なっていきます。

※ PVD(Physical Vapor Deposition: 物理蒸着法): 真空容器内で膜材料を蒸発させ、プラズマ状態でイオン化し素材に付着させて、表面に薄膜を生成する。摩擦低減、耐摩耗性向上などが目的。



<PVD装置>

航空・宇宙・防衛事業領域の昭島事務所を拡張

IHIは、昭島事務所に隣接する土地に新事務所棟を建設し、昭島事務所を拡張することを決定しました。着工は2017年10月、竣工は2019年1月を予定しています。

IHIは、新たな防衛省向けエンジン研究・試作・開発プログラムならびに民間エンジンプログラム「PW1100G-JM」・「GE9X」・「GE Passport20」に参画し、これらの開発・量産対応を含め、航空エンジン事業を推進しています。今回の拡張によって、執務環境を刷新するのみにとどまらず、各部門の集約及び最適配置を実現し、組織横断の連携を強化します。さらに、お客さまのニーズに対する迅速な対応や、品質及び業務の生産性向上につなげることにより、国際競争力を高め、今後とも航空エンジン事業の拡大を図っていきます。



<新事務所棟 完成予想図>

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績									見通し	
	'11	'12	'13	'14	'15	'16年度			'17年度		
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期
売上高	1,436	1,698	2,260	2,670	2,991	698	1,352	2,083	2,915	697	2,600

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)												主要搭載機
	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17/1Q	
V2500	3,154	3,474	3,828	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,236	7,317	エアバス A319/320/321
GE90	579	742	896	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,457	2,509	ボーイング B777
CF34	1,374	1,802	2,274	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,821	4,904	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx						118	259	468	751	1,035	1,295	1,370	ボーイング B787/B747-8
PW1100G										16	148	196	エアバス A320Neo
Passport20												4	ボンバルディア社 Global7000/8000
合計	5,107	6,018	6,998	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,957	16,300	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績										見通し	
	'11	'12	'13	'14	'15	'16年度				'17年度		
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期	
日 本	331	339	353	375	346	85	180	274	389	101	360	
ア ジ ア	169	248	298	275	216	66	96	127	158	28	120	
中 国	143	181	234	243	249	118	205	343	485	215	580	
北 米	11	13	16	18	24	13	19	25	33	7	70	
中 南 米	0	0	0	7	34	29	43	50	61	11	80	
欧 州	437	432	602	756	743	160	322	471	617	327	790	
そ の 他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	1,094	1,216	1,507	1,677	1,616	474	868	1,293	1,746	691	2,000	

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績									見通し	
	'11	'12	'13	'14	'15	'16年度			'17年度		
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期
賃貸収入	95	92	91	93	101	23	46	70	93	23	91

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
17年度1Q	23	9	7	6

豊洲1~3丁目地区 開発マップ

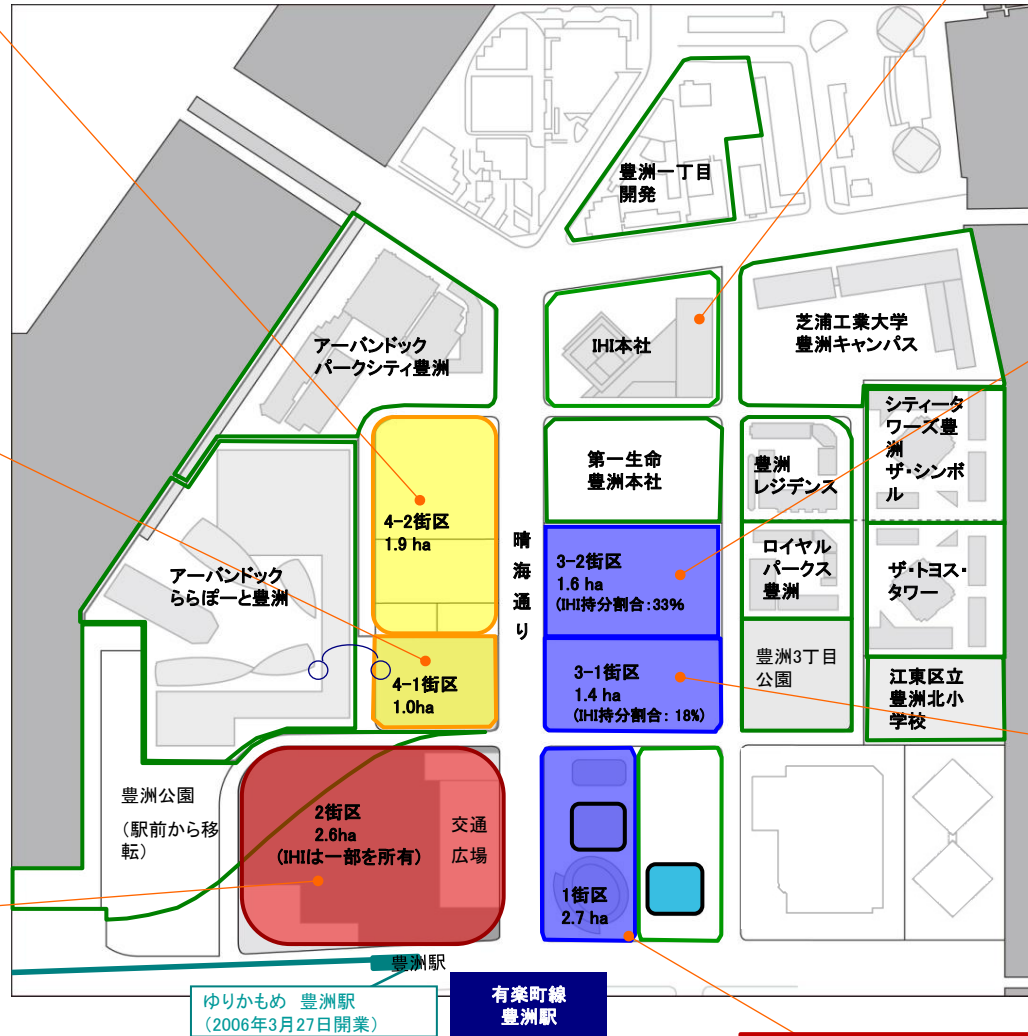
幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場
敷地面積：19,492㎡
2010年3月～2011年2月竣工



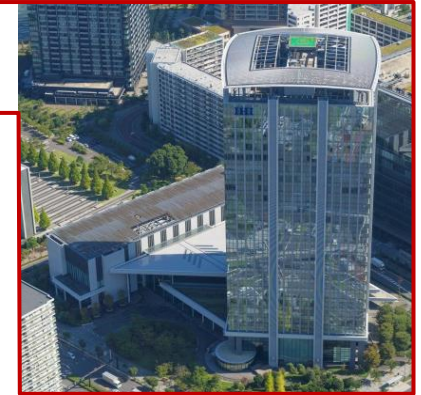
アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡
2006年10月開業



複合ビルAC棟 (IHI, 三井不動産)
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡
2020年4月竣工予定



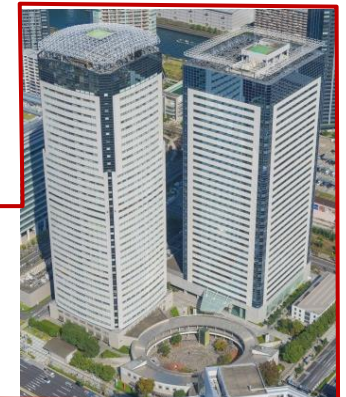
豊洲IHIビル
地上25F, 高さ：約125m, 延床面積：97,617㎡
2006年2月竣工



豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所(SPC))
地上16F, 高さ：約75m, 延床面積：101,503㎡
2014年7月竣工



豊洲フロント (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)
地上15F, 高さ：約75m, 延床面積：106,861㎡
2010年8月竣工



豊洲センタービル
地上37F, 高さ：約165m, 延床面積：100,069㎡
1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
地上33F, 高さ：約150m, 延床面積：105,448㎡
2006年8月竣工

シビックセンター棟：2015年9月開業
消防署棟：2016年6月竣工

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 建物賃貸(借地)
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

IHI所有地	約5ha
--------	------

※1 都市再開発法で定める手法の一つ

IHI

Realize your dreams

ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。